

令和7年6月27日(金)

未来への扉

高等特別支援学校 支援部 第176号



～「おかえり」のひと言が、明日への力に～

支援部長

先日、すべての学年で校内実習・現場実習が無事に終了しました。

それぞれの生徒が自分の持てる力を発揮し、緊張や不安と向き合いながらも懸命に取り組む姿が見られました。ご協力いただいた保護者の皆さまに、心より感謝申し上げます。

実習期間中、子どもたちは普段と異なる環境のなかで多くのエネルギーを使いながら、一日一日を乗り越えてきました。教師からの声掛けはもちろんですが、保護者の皆さまからの励ましの言葉が、子どもたちの大きな支えになっていたことと思います。

「がんばれ」「だいじょうぶ」「今日一日がんばったら、明日はお休みだね」「おかえり」「今日もよく頑張ったね」そんな何気ない一言が、疲れた心に寄り添い、明日への力になります。

子どもたちは、時に相手の気持ちや雰囲気から“察する”ことが難しいことがあります。「きっと分かってくれているだろう」ではなく、きちんと言葉にして、目を見て、思いを伝えることが大切です。

いつもと違う環境でがんばったあとは、ぜひたくさんほめてあげてください。その言葉は、きっと次へのチャレンジにつながっていきます。

さて、夏休みが近づいてきました。3年生にとっては最後の夏休み、1年生にとっては高等特別支援学校で初めての夏休みです。この期間を安全かつ有意義に過ごすためには、事前にご家庭でルールをつくっておくことが大切です。そしてそのルールは、口頭だけでなく、目で見て分かるように「書いて残す」「可視化する」ことが重要です。

たとえば、以下のようなことについて明確に決めておくといよいでしょう。

- ・ ゲームやスマホの時間
- ・ 起床・就寝時間
- ・ 帰宅時間
- ・ お小遣いの使い方や金額
- ・ 友だちとの連絡の方法
- ・ 食事や生活習慣に関すること など

加えて、そのルールに対して、守れたかどうかをきちんと「具体的に評価すること」も忘れずに行っていただけたらと思います。

できなかったこと、守れなかったことばかりに目を向けるのではなく、「できたこと」「守れたこと」に注目して、しっかり言葉で伝え、ほめてあげることが子どもの自己肯定感を育み、次の目標へとつながっていきます。

怒られただけで「何がダメだったのかよくわからなかった」という終わり方ではなく、「どうすればよかったのか」「次はどうしようか」といった前向きなフィードバックが大切です。

お仕事やご家庭の事情でなかなか時間をとるのが難しいこともあるかと思いますが、3日に1回、あるいは1週間に1回でも構いません。親子でじっくり話をする時間をつくるのが、本人の意欲を高め、将来の就労にもつながっていきます。

本校の目標である「働き続けられる人を目指して」の実現には、学校と家庭が連携しながら子どもたちを支えていくことが不可欠です。

ぜひこの機会に、ご家庭での関わり方を少し意識していただき、安全で実りある夏休みをお過ごしいただければと思います。

なお、夏休み中は生活リズムが乱れがちです。体調を崩しやすい時期でもありますので、睡眠・食事・活動時間のバランスを保てるよう、引き続きご配慮をお願いいたします。学校再開時に「疲れて登校できない」「昼夜逆転が戻らない」といったことがないよう、日常のリズムづくりは大切な準備のひとつです。

また、スマートフォンやSNS、ゲームアプリなどの利用についても、トラブル防止の観点から注意が必要です。特に友人関係や個人情報の取り扱いには保護者の管理が求められます。「ルールを守る」だけでなく、「なぜ守る必要があるのか」まで丁寧に伝えていただけると安心です。

一方で、「がんばる」ことばかりを求めすぎず、ほっと一息つける時間や、本人が楽しめる活動も大切にしてあげてください。休む力・リフレッシュする力も、社会で働き続けるために必要な力のひとつです。

もし、夏休みの過ごし方について不安な点やご相談がありましたら、いつでも学校までご連絡ください。どんな小さなことでも、保護者の方と情報を共有しながら、お子さまにとってよりよい支援を一緒に考えていければと思います。

◆ 地域の学校ともつながっています ～巡回相談のご紹介～ ◆

本校では、「センター的機能」の役割の一環として、三田市内の小・中学校に巡回相談を行っています。これは、通常の学級で過ごす中で困り感を抱えるお子さんに対して、特別支援教育の視点から学校や先生方に助言を行うものです。

たとえば――

- ・ 授業中、席に座ってられない
- ・ なかなか集中が続かない
- ・ 板書をうまく写せない
- ・ 気持ちの切り替えが苦手
- ・ 強い言葉を使ってしまう
- ・ 朝、学校へ行くことがつらくなる



こうした子どもたちに、「どんな支援があればその子らしく過ごせるのか？」を一緒に考え、できることから取り組んでいけるようサポートしています。

巡回相談を通して出会ったお子さんの中には、その後、安心できる環境の中で少しずつ自己理解を深め、自信をもって取り組めるようになったケースがあります。

支援のあり方は一人ひとり違いますが、「できることがある」「分かってくれる人がいる」という経験が、子どもたちの成長の力になっています。

このように本校では、校内だけでなく地域とも連携しながら、子どもたちの「学び続ける力・働き続ける力」を支えていけるよう取り組んでいます。